

## 第1回奈良市みどりの基本計画策定委員会に関する意見の概要

開催日時	令和5年12月4日（月）午後3時から午後5時まで
開催場所	奈良市役所 北棟6階 601会議室
意見等を求める内容等	1. みどりの基本計画の概要について 2. 奈良市のみどりの現状について 3. みどりの基本計画 計画の方向性について
参加者	出席者5人 ・ 事務局 9人
開催形態	公開（傍聴人1人）
担当課	都市整備部 公園緑地課

### 意見等の内容の取り纏め

事務局による概要説明の後、出席者に意見を求めた。

《意見を求めた内容及びそれらに対する意見等》

#### 1. みどりの基本計画の概要について

事務局より、奈良市みどりの基本計画策定委員会運営要領、みどりの基本計画の概要について説明を行った。

#### 【意見等】

〈計画改訂の背景と目的・本計画の位置づけについて〉

・国の政策について：環境省の最新の動向（ゼロカーボン、OECM、サーティーバイサーティー、ネイチャーポジティブなど）の反映及び計画との関連性の整理すべき。

・公園マネジメント基本計画は法的位置づけがない。みどりの基本計画のマネジメントに関する施策等に「奈良市公園マネジメント基本計画によるものとする」など一言入れておく方が良い。（姫路市など他市参照）

〈「みどり」「緑地/緑」の機能について〉

・「みどりの機能」の図について

計画の改訂内容を示す重要な図であり、図が貧相で再検討が必要。「みどりの将来像」に入れることも検討すべき。

→ウェルビーイング＝幸福感と繋げられる市民ばかりではない。「緑」の存在・利用・波及効果とウェルビーイングの関係性がもう少し整理した方が良い。

・緑の機能について「教育」「福祉」「地域のつながり」のキーワードがあると良い。

・学校教育における緑の大切さなど、教育的観点もあると良い。

・コミュニティスペースの場としての住宅地における公園や農地の役割が重要。  
→福祉・学び、地域の繋がりなど、通り過ぎていたただの緑の場所が、人に会うことを目的に集まる場所に変革してくことをしっかり促すことが大事。

・緑の効果として存在、利用、波及効果を上げているが、波及効果はひらがな「みどり」ではないか。

・7つの機能の中にも存在、利用、波及効果が存在するので、「効果」と「機能」の整理が必要。

〈みどりの機能について〉

・「グリーンインフラ」も入れていた方が良い。

〈みどりを取り巻く社会情勢について〉

・カーボンニュートラルや生物多様性等の記載が簡素。マネジメントとも関係する重要な分野なので、しっかりとおさえる必要がある。

〈関係する関連法令等の動向について〉

・2030年から30年スパンで練り直された「生物多様性の国家戦略」が反映されていない。

〈その他〉

・計画の構成について、国レベルの大きな話から奈良市の個別事情に話を落とし込んでいるが、奈良市においては個別事情が非常に大事なので、計画前半のバランスや構成は再検討しても良い。

・目指すべき指針について、奈良市におけるみどりの重要度、目指すべき指針が一番初めに語られるべき。奈良市が目指す方向性について強いメッセージが必要。

・「緑」を「みどり」にするのであれば、教育・福祉の計画との連携があった方が良い。

## 2. 奈良市のみどりの現況について

事務局より、奈良市の現況、奈良市のみどりの現況、現行計画の進捗状況、みどりの課題について説明を行った。

### 【意見等】

〈施設緑地の現況について〉

・施設緑地の範囲について施設緑地が公園だけになっている。遊び場などを足せないのか。（東京の「冒険遊び場」のような施設）子どもが自由にしたいことができる体験が大切。

〈みどりの課題について〉

・課題が綺麗で、ふわっとした印象。本当の課題というか、奈良の実情に応じた顔の見

えるような課題にブラッシュアップが必要

○みどりの課題「みどりに係る財源、人材の確保」について

・人材の確保について、NPO 法人、大学との連携、専門知識を持った行政職員など何を指すのか。

・「多様な主体との連携」という言葉について、誰と誰との連携なのか

・マネジメントについても、民間組織を立ち上げるのか、庁内にマネジメント部署を作るのか、分からない。

○みどりの課題「公園等の柔軟な使いこなし」について

・「インクルーシブに対応した使いやすい施設」を「インクルーシブ社会に対応した施設」と変更すること

・「使いやすさ」の文言について再検討。→風にあたるだけなど何かを使わなければいけない訳ではない。

・「公園等の柔軟な使いこなし」ではないので再検討すること。

〈その他〉

・「連携」「協働」「参画」という言葉について具体的にどのような連携なのか理解し、慎重に使うことが重要。

・東部地域におけるキャンプ場の役割について、大半を占める東部の緑の活用が課題。野外活動センターの役割にも限界があり、子どもが自由に遊べ、交流が期待できるキャンプ場が重要。

・土地利用、施設緑地などの表記も「みどり」になっているが、緑かみどりの表現の区別が難しい。

・それぞれのデータの出典を明確にしておく。

### 3. 計画の方向性について

事務局より、計画の基本理念、基本方針について説明を行った。

#### 【意見等】

〈計画の基本理念について〉

・「ウェルビーイング」の概念自体が分かりにくいのであまり良くない。

・「育てる」「育む」には、自然そのものに対することのみでなく、緑のある場所に対する思いを「育む」など様々な意味合いがある。能動的でポジティブなワードを入れることを検討したい。

・どれも既にありそうなもので新しさが無い。

・「緑を育み、緑とともに暮らすわたしたちの奈良」のように「育む」「ともに」などアクティブなワードを入れると良い。

案A：みどりを育み、繋ぎ、みどりと共に暮らすまち、奈良

案B：みどりを育み、繋ぎ、みどりと共に暮らすわたしたちのまち、奈良

〈計画の基本方針について〉

・基本方針3「みどりのある暮らしを支える」と基本方針4「みんなでみどりを育む」の違いが少し分かりにくい気もする。里山や環境教育、共存共栄、多様性など、委員の方から出た意見や今後の具体的な施策など、もう少し計画の検討を進める中で、方針をどのように分けていくか考え直す方が良いかも。

・基本方針4「みんなでみどりを育む」について、街区公園を対象にした話に収まっている印象があり、里山を含めたみどりを捉えるべき。チェーンソーの使い方、まちのあり方についての知識を習得するなど環境教育を整えることが重要。

〈里山について〉

・人間のみに着目するのではなく、鹿などの動物との共存、共栄をして、その多様性を支える「里山」についても深く織り込んでいくべき。

〈計画全体について〉

・計画の課題→方針→施策と一貫している事が重要。さらに、別軸として、グリーンインフラや生物多様性などが課題→方針→施策とどのように関連しているかなど、マトリックスになっていると良い。

※グリーンインフラの創出や生物多様性の保全は、1つの施策を実施すれば達成できる訳ではない。グリーンインフラの創出に寄与する施策は〇〇と〇〇などと記載すると良い。

・堺市のみどりの基本計画のように、施策1つ1つに指標のような目標を定めることは重要である。施策ごとに目標を達成する小さなPDCAと計画全体を推進する大きなPDCAの両方があれば良い。

・各施策についてできた、できていないではなく、なぜできなかったかの理由と、それをどう改善し、工夫していくかが重要。

・地域別計画と同様の並びでマネジメントの視点から見たマネジメント計画があったら良い。その場合、地域別計画やマネジメント計画の中にアクションプランが入るなど、計画の構成も検討が必要。

・街区公園3個を廃止して、1個近隣公園作るなど、今後50、100年先を見据え、奈良のみどりをどのように再編していくかという都市計画的な検討はすごく大事(GISデータを活用すると色々な視点から検討できる)。

・都市計画マスタープランのように、みどり版の都市構造である「みどりの軸・ネットワーク」を示すことができれば良い。